

第27期通常総会／懇親会

5/22

第27期(社団法人としては第一期)の通常総会が、5月22日(金)午後5時から東京・神楽坂の日本出版クラブ会館で開催されました。総会では2008年度の決算報告と2009年度の事業計画案、予算案などが審議され、また理事の担務変更や関西支部の設立についての報告がありました。

総会終了後には同会場で懇親会が催されました。



大勢の会員が参加した通常総会後の懇親会

第4期 編集技術講座(第1回～第2回)

5/28 6/18

第4期編集講座「基礎から学ぶ編集教室」が、5月28日より東京・一ツ橋の日本教育会館で開講されました。編集講座は、編集制作の基礎的な知識や考え方の習得を目的とするもので、年9回の体系的なカリキュラムに基づき実施されます。今年は「基礎編」と位置づけ、「編集者の日常生活やマナー」に始まり、最後は実践編としてのグループワークまでを予定しています。

第1回は評論家(元講談社)の鷲尾賢也氏が「いい編集者になるには? ～日常生活からマナーまで～」と題して、第2回は幻冬舎第二編集局編集第一部編集長の鈴木恵美氏が「企画力と企画書づくりのポイント」と題して講義しました。

次回講座は7月16日。小学館出版局チーフプロデューサーの田中修氏が「ディレクション能力の高め方 ～誰に、何を、どう頼むか?～」と題して講義します。

当講座は来年3月まで行われ、毎回スポットでの受講(1講座3,500円)も受け付けています。

拡大協議会

6/12

拡大協議会が6月12日(金)午後6時30分から東京・神田小川町の明治大学紫紺館内のレストラフォレスト椿山荘で開催されました。拡大協議会は、役員のほか各委員会の副委員長、各支部の副部長が集まり、協会運営やさまざまな施策に関して意見を聞く場で、理事会の諮問的な機関としての役割を果たしています。今年には会員拡大やホームページの有効活用などについて、意見交換が行われました。

経営研修セミナー

6/26 6/27

毎年恒例の「経営研修セミナー」が6月26日(金)～27日(土)に神奈川県箱根町強羅の「リゾーピア箱根」で開催されました。

午後1時30分からの第一部では、高雄事務局長をプレゼンターとして「経営白書」の報告と意見交換が、第二部のセミナーでは、一般書、企業出版、教材、デジタルの各支部から、「各支部の現状と展望」についての報告があり、その後活発な意見交換が行われました。また第3部では恒例の新入会員の紹介と事例報告が行われ、その後、6時から懇親会が催されました。

恒例春季ゴルフコンペ

4/16

毎年恒例の春季ゴルフコンペが、4月16日(木)に埼玉県大里郡寄居町の森林公園ゴルフ倶楽部で開催されました。当日は4組16名が参加し、(有)ヤナイクリエイティブの柳内正義氏がネット77(グロス89、HC12)で優勝しました。準優勝はネット78(グロス91、HC13)の(株)アークコミュニケーションズ松森雅美氏でした。



優勝カップを手にする柳内正義さん

お知らせ

理事の管掌部門変更 (2009年6月末現在、敬称略/音順)

第27期通常総会において報告された理事の担務変更は以下の通りです。	
理事長 細江 弘司 (株)オフィス201	教育委員長 兼務
副理事長 小椋山範男 (株)ブレンプール	経営委員長
事務局長 高雄 宏政 (株)タカオ・アソシエイツ	企業出版部会長
理事 鈴木あきら (株)オフィス・サンタ	広報委員長 兼 デジタル部会長
理事 平田 顕 (株)キャデック	組織委員会担当 兼 一般書部会長
理事 山本 肇園 (株)シナップス	組織委員長 兼 教材部会長

第一回AJEC「社員交流会」を開催します。

今年は初の試みとして、8月にAJEC会員社の「社員交流会」を予定しています。一つの宴席を囲みながら、それぞれ他の部会に属する会員社の社員がどのような業務に携わっているのかについて情報交換をしたり、同じ編集業務に携わる者としての共通の思いを語り合ったりする、楽しい交流の場にしたいと考えています。

詳細は追ってご連絡いたしますので、大勢の方にご出席いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

AJECホームページのアドレスが変わりました。

社団法人化にともない、ホームページのアドレスを変更しました。新しいアドレスは以下の通りです。「お気に入り」「ブックマーク」に登録されている方は、変更をお願いいたします。

旧アドレス <http://www.ajec.com/> → 新アドレス <http://www.ajec.or.jp/>

Contents

Information	1
Discussion	2~3
Activities	4

Association of Japan Editing & Creation

【事務局】 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-3 錦町ビル3F
TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.or.jp/>

Information

編集制作プロダクションフェアを開催 第4回「日本編集制作大賞」の選考も実施

7月9日(木)～12日(日)に東京ビッグサイトで開催される第16回東京国際ブックフェアで、今年も「編集制作プロダクションフェア」を同時開催します。日本編集制作協会のブースでは、会員ガイドや入会案内、協会報などを配布し、協会活動を紹介するとともに、会員社が編集制作した最新の代表作「我が社の一冊」を展示。この展示作品の中から、来場者に優秀な作品を選んでいただく第4回「日本編集制作大賞」の選考審査会も予定しています。

●日本編集制作大賞とは

当協会の会員社が全部または大部分の編集制作業務に携わった単行本、雑誌、教材、ムック、PR誌、カタログなどの作品の中から、①クオリティ、②スキル、③ルーティン(継続性)などの面で特に優れた作品を選考し、各賞を決定します。選考対象は編集制作プロダクションフェアの協会ブースに展示する「我が社の一冊」で、

1社1作品に限定します。

受賞作品にはリボン記章をつけ、会期後半2日間にわたって展示披露するほか、後日、授賞式を開催し、表彰楯を贈呈します。

日本編集制作大賞の各賞は以下のとおりです。

- ◇日本編集制作大賞グランプリ 1点
- ◇ " 一般書部門賞 1点
- ◇ " 企業出版部門賞 1点
- ◇ " 教材部門賞 1点

●選考方法

- ①応募条件 表紙のインパクトが選考に大きな影響を与えることから、表紙・装丁は自社でデザインまたは企画していることを条件とします。
- ②展示方法 候補作品は、作品の内容、携わった仕事の範囲などを明記・添付し、一般書、企業出版、教材の3部門にわけて陳列棚に展示します。
- ③配置場所 作品を配置する場所は公正を期すため部門ごとに抽選によって決め、各作品に番号を付けます。



④投票資格 協会ブースに来場した人全員に投票資格がありますが、作品を出展した会社の社員は投票できません。また、不正防止のため記名投票とし、1人1票とします。

⑤選考期間 選考会は協会ブース内に限って行い、版元、書店、取次などの出版関係者や専門家が多く来場する会期前半の2日間(7月9日～10日)に行います。

⑥集計作業 投票は2日目の午後5時をもって終了し、ただちに担当理事の立ち会いのもとで集計します。

⑦集計方法 部門賞は各部門の最高得点に、グランプリは各部門の応募点数を考慮して決定します。

(計算式=当該作品の得点×その部門の応募点数÷全応募点数)
なお、応募条件を満たさない場合、記載に虚偽があった場合、投票に不正な行為があった場合などは、投票結果に関わらず失格となります。

個別出展予定の会員社

- (株)エディット
- (株)オフィス201
- (株)オフィス・サンタ
- (株)カルチャー・プロ
- (株)くすのき舎
- (株)タカオ・アソシエイツ
- (株)プランディット
- (株)群企画 (50音順)



編集制作プロダクションフェアの協会ブースでは、会員社がエントリーした「我が社の一冊」を展示。その中から来場者に優れた作品を選んでもらい、「日本編集制作大賞」を決定します。昨年は363名の方に投票していただきました。

▲日本編集制作大賞にエントリーした「我が社の一冊」は、第3回「日本編集制作大賞」を決定。日本編集制作協会(AJEC)と東京国際ブックフェアの主催者である東京国際ブックフェア実行委員会が主催する。今年も「我が社の一冊」を展示し、来場者に優れた作品を選んでいただく。第4回「日本編集制作大賞」の選考審査会も予定しています。選考対象は編集制作プロダクションフェアの協会ブースに展示する「我が社の一冊」で、1社1作品に限定します。受賞作品にはリボン記章をつけ、会期後半2日間にわたって展示披露するほか、後日、授賞式を開催し、表彰楯を贈呈します。日本編集制作大賞の各賞は以下のとおりです。◇日本編集制作大賞グランプリ 1点 ◇ " 一般書部門賞 1点 ◇ " 企業出版部門賞 1点 ◇ " 教材部門賞 1点 ●選考方法 ①応募条件 表紙のインパクトが選考に大きな影響を与えることから、表紙・装丁は自社でデザインまたは企画していることを条件とします。②展示方法 候補作品は、作品の内容、携わった仕事の範囲などを明記・添付し、一般書、企業出版、教材の3部門にわけて陳列棚に展示します。③配置場所 作品を配置する場所は公正を期すため部門ごとに抽選によって決め、各作品に番号を付けます。

第3回「日本編集制作大賞」の受賞結果を報じるフジサンケイビジネスの記事(2008年7月18日付、17面)

できることはたくさんある。 新生AJECの目指すもの



飲み会が一番たけになる

鈴木 創立25周年を経て、ようやく念願の社団法人として第一歩を踏み出したわけですが、今日は、これから新生AJECとしてなすべき課題について各委員からお話しいただきたいと思います。

山本 組織委員会としては、何をさておいても会員の拡大が最大の課題です。現在、都内だけでも1,000社近い編集プロダクションがあるとされています。そのすべては無理としても、3分の1、つまり300社程度の会員獲得を目指したいと思います。会員が増えなければ組織としても力を持ちませんし、協会員である矜持も生まれません。もちろん、これは口で言うほどに簡単なことじゃありません。今はとにかく、こまめに足を使っての勧誘活動しかないとは思っています。

細江 現在の会員社が一社一会員を勧誘するだけで倍増するんだけど、それはそんなに難しいことなのかなあ。

鈴木 計算上は難しいことじゃないですよ。計算上は、ね(笑)。

小檜山 会員を増やすためには協会に入会するメリットが明確じゃなければダメだと思うんだけど、それをどのように

伝えていくかだよ。

山本 明文化できるメリットって意外に少ないんですよ。たとえば、著作権など法律に関して相談できる顧問弁護士がいるとか、事務局を通じて仕事の紹介があるというようなメリットもあるにはあるんですが、それだけで新規会員が獲得できるとは思えません。

鈴木 一番のメリットは、各部会などの会合で会員同士が行う情報交換でしょう。私も最初は「協会に入れば何か仕事のきっかけができるかな」というような軽い気持ちで入会したんですが、実際に入会してみると、会員社の社長たちとの飲み会が一番たけになる。「ああ、こんな会社運営の方法があったのか」とか、「そうか、こんな風にして人材教育をすればいいんだ」というような目から鱗が落ちるような経験をずいぶんとさせてもらった。いわば明文化できない情報交換が入会の最大のメリットなんですが、それを外部の人に伝えていくのは実に難しい。

小檜山 そんな情報交換の場として経営委員会の主催する「経営合宿」や「例会」があります。そこで会員各社の経営者たちの抱えている悩みや課題を取り上げ、外部講師を招いての講演や率直な意見交

換などを行っています。これまではやや抽象的な課題が多かった感が否めませんでした。これからは、研修の課題をより具体的、より経営の現場に密着させたものにするので、ますます内容を充実したものにしていききたいと思います。

細江 メリットを享受するってことで言えば、とにかく協会の会合に積極的に参加して欲しいと思います。ただ入会したってだけじゃ、メリットは得られません。その点、教育委員会が主催して今年で四期目になる「編集講座」はわかりやすいと思うんですよ。今年は「基礎から学ぶ編集教室」ということで、編集者の心構え、マナーから始まって企画の立て方やプレゼンまでを実際の編集現場に添った形で進めていきます。こうしたイベントに社員を参加させるメリットは大きいと思います。

山本 ただ、編集の実務ということでは各会員社によってやり方も違うし考え方も違う。扱っている書籍のジャンルによってもずいぶん違いますね。結局は各社のOJT以外に効果的な教育方法はないんだってことになりませんか。

細江 いや、この講座で実務は教えられないし、そういう意図で企画した講座じゃないんですよ。ここで聞いた講義の内容が、そのまま実務に役立つ訳じゃない。でも、仕事をしていて壁に当たったときに、ふとこの講座のことを思い出すときがある。あるいは、しだいにルーティンに陥っている仕事を客観的に見直すきっかけになる。そんな風に活用してもらえれば、この講座の意義は決して小さくはないと思うんです。

鈴木 そうですね。うちの社員もこの講座に参加して、「あんな風な企画の切り口があったんだ」というような刺激を受けています。

みんなで採用広告を出せば?

山本 その意味では、僕もこの講座はとってもいい講座だと思います。でも、た



だやりっ放しじゃもったいないような気がします。もっとこの講座を有効に活用する方法はないんでしょうかね。

鈴木 広報委員会としては、この「編集講座」をさらに拡充・拡大、開放していくことで、AJECの存在意義を告知していきたいと思っています。たとえば、この講座の案内を会員社や業界内だけじゃなくて、各大学の就職課に配布するって手もあるでしょうし、講座の記録をAJECのホームページ上で公開していくというようなやり方もあるでしょう。それとは別に会員各社の持っている編集ノウハウを持ち寄って公開Web講座を開講するとか、あるいは会員社の社員が情報交換する「編集広場」みたいなものがあったりもいいかもしれない。要はホームページをもっと有効に活用していこうっていう話ですね。そこで会員社同士の交流が活発化してくれば、もっと刺激的な動きが出てくるかもしれないし、さらに言えば、編集業界志望の就活学生向けの編集業界セミナーというようなものがあれば、AJECの広報にもなるし、新卒学生との共同採用という人材確保の一翼にもなると思うんですよ。

小檜山 でも、会員社の中で新卒採用というのはどうなのでしょうね。それほど需要は多いのかしら。

細江 新卒は難しいかもしれないけど、中途採用だったらこの会員社でも日常的に行っているんじゃないですか? どうせ中途採用に費用をかけるんだったら、会員各社がバラバラでやるよりも、一口いくらで費用を出し合ってドーンと

共同で中途採用広告を打つようなやり方は有効なんじゃないですか?

鈴木 それはかなり効果的だと思いますね。一社だったら小さな広告スペースしか確保できなくても、会員社が集まれば大きなスペースが確保できるし、合同セミナーだって開催可能です。それに、なんとと言っても「社団法人日本編集制作協会」の人材募集ということであれば注目度も違うでしょう。そこで母集団を形成して、そこから各会員社のブースやホームページに誘導するというやり方もできます。

小檜山 経営合宿でいつも発表される「経営白書」の分析を見ていると、会員社に共通する悩みは常に「資金繰り」「後継者の育成」「人材の確保」の3つです。その中で「資金繰り」や「後継者の育成」に関しては経営合宿、あるいは例会の研修課題として追求していきませんが、「人材の確保」に関しては、今のお話のようなやり方が有効だと思いますし、そんなに実現が困難なことだとも思えませんね。

細江 会員社が全社参加しなければならないというのであればいろいろと問題も出てくるかもしれませんが、ニーズのある会員社でとりあえずスタート

しましょうということであれば、十分に現実的な話だと思いますよ。

山本 こんなメリットがあるから会員になりませんかというよりも、こんなメリットを作り出すために一緒に協会の盛り上げていきませんかという勧誘の仕方ができれば最善なんじゃないかと。

細江 それは鈴木さんあたりが好きそうな、実に綺麗な話だな(笑)。

鈴木 人を理想に燃える青少年みたいに言わないでくださいよ(笑)。私だっていい歳なんですから。

細江 本当に、もういい歳なんですよ、私も。この業界でご飯を食べさせてもらうようになって、もう40年以上になりますからね。だから、今は恩返しのもりなんです。この業界を少しでもよくするためのお手伝いがしたい。それが正直な気持ちなんです。

小檜山 そのためにも、少しでも会員社のメリットを生み出せるような方向を模索しないとイケませんね。

山本 会員を増やすためにも、もっともっとメリットを生みだしていけるようお互いに知恵を絞り合ひましょう。

鈴木 私好みの、とても綺麗な話に仕上がったところで、お開きということにしましょうか(笑)。

プロフィール



細江 弘司
Hosoe Kouji
理事長・教員委員長
株式会社オフィス201
代表取締役



小檜山 範男
Kobiyama Norio
副理事長・経営委員長
株式会社ブレインプール
代表取締役



山本 肇
Yamamoto Hajime
理事・組織委員長・
教材部長
株式会社シナップス
代表取締役



鈴木あきら
Suzuki Akira
理事・広報委員長・
デジタル部長
株式会社オフィス・サンタ
代表取締役